

広い視野が **学び** を **変える**

— 三重大学の共通教育 —

2023年春、三重大学の共通教育がパワーアップ。

基礎となる教養を身に付けるだけでなく、これからの社会に欠かせない広い視野を養い、多様な価値観を理解することに重点を置いたカリキュラムは、きっと三重大学での4年間と、そしてその後を変えてくれるはず。新しい共通教育の立ち上げに熱い想いを注ぎ続けてきた3人に話を聞きました。



大野 研 OHNO, Ken
特命副学長 教育(共通教育)担当

鶴原 清志 TSURUHARA, Kiyoshi
理事・副学長 教育担当

大井 淳史 OOI, Atsushi
学長補佐 教育(共通教育)担当

専門分野は地盤工学、景観設計。
自然が持つ様々な価値を適切に評価することが現在の研究課題。
趣味はポッドキャストと料理。

専門分野はスポーツ心理学。
イメージトレーニング、メンタルトレーニングに関する研究が現在の課題。
趣味はゴルフであり、生涯スポーツとして生涯続けることが目標。

専門分野は食品レオロジー、生物物理学。
食品物性の評価手法を応用した伊勢型紙型地紙の調査が現在の研究課題。
趣味は音楽鑑賞と読書。

キャリア教育が1年生の必修となった理由

三重大学の共通教育、どう変わったのですか。

鶴原清志理事・副学長(以下「鶴原」) 大きな枠組みとして、「大学基礎科目」と「専攻基礎科目」に、新しく「教養基礎科目」を加えた3つの科目群の構成となりました。「大学基礎科目」は、三重大学ビジョン2030の教育領域においてうたわれている「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」に「行動する力」を加えた総合的な「生きる力」を身につけるための基礎となる科目。「専攻基礎科目」は、専攻する学部での学びの準備教育となる科目です。そして、「教養基礎科目」が、副専攻として学べる科目となっています。

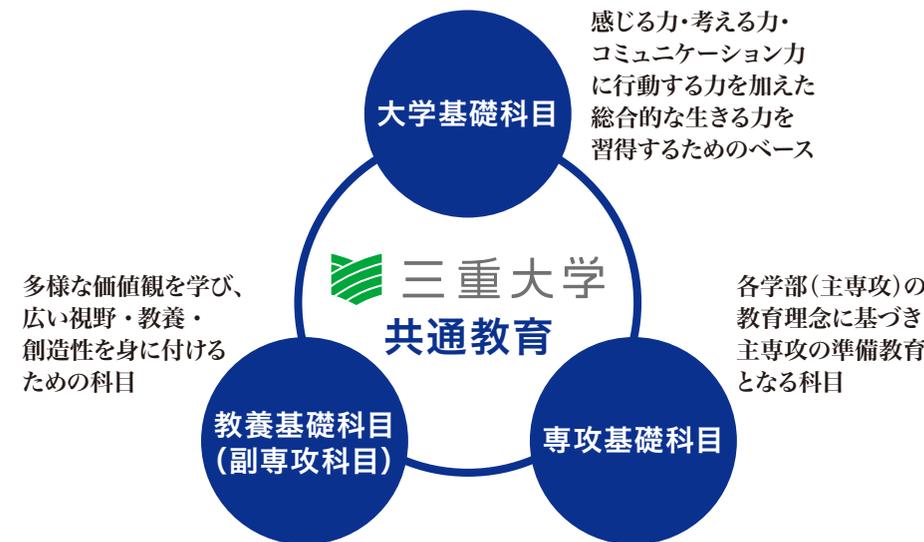
**その中で、三重大学ならではの
特徴はどんなところにあるのでしょうか。**

大野研特命副学長(以下「大野」) まず、大学基礎科目に属する「キャリア教育」と「データサイエンス」が全学部・学科とも必修になったことです。特に、「キャリア教育」は1年生の必修授業です。同様の事例を国内ではほとんど聞きません。これに特徴ある幅広い教養基礎科目が加わったことで、三重大学の共通教育はかなり独自性の高いものになりました。学生に幅広い社会常識や視野を持って専門性を極めてほしいという強い想いが込められた構成です。

キャリア教育がいきなり1年生で必修ですか。

鶴原 キャリア教育という就職のための準備と聞こえるかもしれませんが、もっと幅広いものです。それよりも、大学で学び、いずれ社会に出ていく中で、自分がどういうキャリアを目指していきたいか、そのためにこれからの学びをどう生かしていくかを考えてもらうことに主眼が置かれています。

大野 もちろん、「せっかく大学に入ったんだから早く専門科目を学びたい」という学生もいます。しかし、専門を学ぶためにも基礎となる力が



多様な価値観を学び、広い視野・教養・創造性を身に付けるための科目

必要です。それを共通教育で身に付けるわけですが、その中でも、入学してすぐにキャリア教育を受けることで、基礎教育の意義をより理解できるようにと考えています。なぜ学ぶのか、どう学ぶのか、といった学びの指針をここでつけてほしいなど。

**ダッシュする前にゴールをイメージすることで、
コースや走り方が見えてくるという感じですね。**

大井淳史学長補佐(以下「大井」) 実は、キャリア教育という授業自体は以前からあったのですが、全学部共通の1科目だったため、それぞれの学部の専門性に特化しきれていないという課題があったわけです。そこで、今回の変更では、学部や学科ごとに目指すキャリアをより明確にイメージできるように組み立て直しを図りました。

学部や学科ごとに違うのですか。

大井 はい。例えば教育学部でも、数学教育、音楽教育などにより内容を変えています。また、「こういうキャリアのためには、こういうことを学びたい、こういう視野が必要だ」といったことをより具体的に考えてもらえるように、それぞれの領

域に合わせて、実践的な経験や見分に触れられるキャンパス外での実習も取り入れています。

大野 そうしたキャンパス外での実習では、地域の企業家から話を聞くなど、起業家精神を学ぶ機会でもあります。キャリア教育をスタートとして、様々な経験や見分を深めながら、三重県はもとより、それぞれの地域で新しい産業を生み出し、地域に貢献し、地域と共創できるリーダーが学生の中から出てきてくれればと願っています。

**データサイエンスの必須化も
三重大ならではの、とのお話がありましたか。**

大井 データは、今や理系に限らずどの分野でも扱う、避けて通れないものです。かといって、業界や職種によって、扱うデータも扱い方も違います。これも学部によって内容を変更していて、教育学部が関連する分野でのデータサイエンス、医学部が関連する分野でのデータサイエンスといった具合にプログラムを工夫し、それぞれの専攻分野に紐づけて、関心を持って学べるようにしています。

今の社会に不可欠な教養として”多様な価値観”を学ぶ

副専攻制を取り入れたことも 今回の新しい取組ですね。

鶴原 冒頭に触れたように、副専攻として選べる「教養基礎科目」を今回初めて科目群に加えました。

副専攻というのは、主専攻とは別に、副次的な位置づけで、関心のある特定のテーマについて学べることから、そう呼ばれています。多様な価値観を理解し、広い視野や創造性を身に付けるというコンセプトに基づいて、幅広い教養とともに、柔軟な発想力や応用力を養える科目を揃えました。

大野 このコンセプトの中でも、副専攻で特に重視したのが、“多様な価値観を理解する”という点で、今の社会では特に不可欠な教養です。それを理解し、互いに尊重することができたとき、また新しい目標が生まれてくるのではないかと思います。そのきっかけが詰まっているのが、三重大の副専攻と捉えてもらえるといいかもしれません。

カリキュラムには、 かなり工夫を凝らされたとか。

鶴原 7か国語におよぶ外国語や環境・科学など、分野は6つ、科目数としてはのべ約300に上ります。幅広いラインナップから自由を選べるのですが、大学としては、できれば理系の学生は文系的テーマを、逆に文系の学生が理系的テーマを履修するよう薦めています。

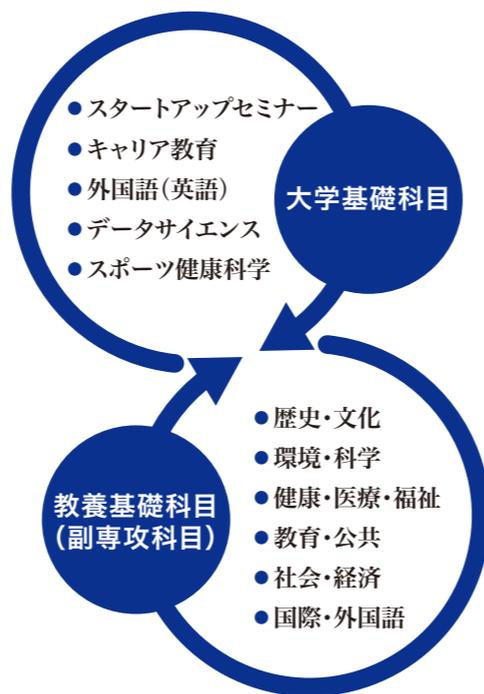
既成概念を超えたところに 新たな発見がある、という感じでしょうか。

大井 専門科目では到達すべき具体的な学習目標がありますが、共通教育の科目では、それよりも多様な視点や意見交換ができるかどうかを重視されます。専門知識を覚えるのではなく、自分とは少し違う分野のテーマに取り組ん

でみたり、いろいろなバックグラウンドの学生が集まって考えたり、意見交換をしたりすることが、共通教育の、特に教養基礎科目の意義の一つになっています。

主専攻にガチガチになるのではなく、 関心のあることを自由に探究できる場にも なりそうですね。

大井 その通りです。副専攻制の良さは、学生が学びたい分野を自分で決めて、選べる場所にもあります。入学してすぐの時期と、専門科目の勉強や就職活動などを経験した後では、関心や気づきも変わりますよね。その時に、「もう一回この分野で10単位取り直してみよう」とか、「違う視野を広げたい」とか思ったときに、何年生であつても自由に副専攻ならアクセスできる。多様な学びのニーズに合わせて学生が積極的に利用できるシステムとして、もっと充実させていきたいと考えています。



自ら課題を見つけて、切り拓いていく、そんな背中を押すために

大学のカリキュラムにおいて、一見、 主専攻に比べ優先順位が低いように見える 共通教育にも三重大が力を入れる 背景は何ですか。

大野 人生において“お金を稼ぐ”というのは目的ではなく、本当は豊かな人生を送るための手段でしかありません。

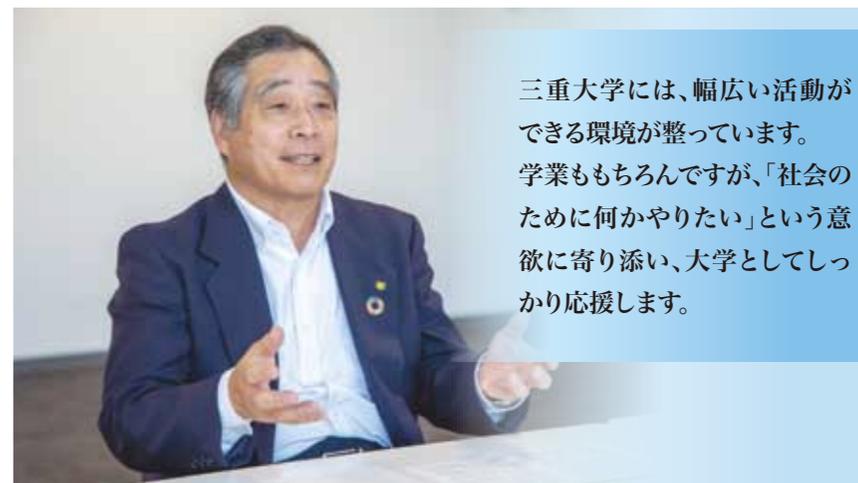
学問を究めるということも同じで、それ自体が目的ではなくて、学問を究めた上でそれを何に役立てるのか、それを学生にも気づいてほしい。そのためには、世の中には、自分とは違う多様な価値観があることを知り、自分自身が多様な視点を持つ必要があります。それを大学時代に身に付けられるかどうか、やはり一人ひとりの学生にとってとても重要なのではないのでしょうか。

そうした共通教育のプログラムの さらに一歩先をどんな風に見ていますか。

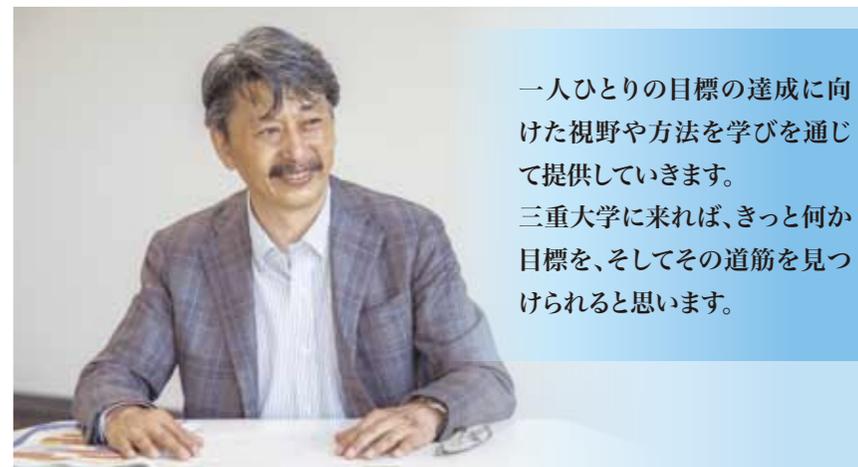
鶴原 学生の「学びを生かして何かやりたい」という気持ちは、三重大にとって大きな価値です。共通教育のカリキュラムでも、「こんなことをこんな風に学びたい」といった学生の希望を取り入れ、さらに学生の満足度を得られる質の高い授業やシステムを作っていく予定です。

また、学内起業をはじめ、学生が共通教育で養ったことを生かして、何かチャレンジしようという時に、大学がサポートできるような体制も準備しています。

いろいろな不安がある今の社会で、人から教えられるだけでなく、自ら課題を見つけて、自分の力で切り拓いていく、そういう姿勢を持てる学生が三重大からたくさん出てきてほしいです。そして、その背中を押すのが、三重大の共通教育でありたいと、私たちは考えています。



三重大には、幅広い活動ができる環境が整っています。学業もちろんですが、「社会のために何かやりたい」という意欲に寄り添い、大学としてしっかり応援します。



一人ひとりの目標の達成に向けた視野や方法を学びを通じて提供していきます。三重大に来れば、きっと何か目標を、そしてその道筋を見つけられると思います。



多様な学びのニーズに応えられるプログラムが揃っています。海と山の自然豊かな三重の地で、共に学んでいきましょう。